



上津江

Kamitsue



リメイクであずま袋を作ろう！

1月22日、上津江公民館で「あずま袋を作ろう！」講座が開催され、13人が参加した。あずま袋は一枚の布を簡単に縫い合わせて袋状にしたもので、畳んで持ち運ぶことができ、昔から使われてきた。今回は、参加者が風呂敷や端切れ、帯などを持ち寄って、手縫いでリメイク。参加者は、思い思いのあずま袋を楽しみながら作っていた。



一年の無病息災を願って

1月10日に上野田自治会主催による鬼火焚きが行われた。雪景色の朝、神事が行われ、今年の年男・年女が竹で作ったやぐらに点火した。参加者は正月飾りを燃やしたり、焼いたもちを食べたりして、今年一年の無病息災を祈願した。1月3日に都留地区住民有志によって行われた鬼火焚きでも、ぜんざいやもちを食べ、新年の恒例行事を楽しんでいた。

天瀬

Amagase



雪化粧した桜滝

1月8日、強い寒気が上空に流れこんだ影響で雪が降り積もった。桜滝では、寒さが生み出す自然美を見ることができ、水しぶきで濡れている滝の周りは凍って、無数の氷柱が下がっていた。桜滝は、春にはおだやかな光の風景、夏には新緑の風景、秋には紅葉の風景と四季折々の姿を見せ、私たちを楽しませてくれる。



復興へ向けて！応援プロレス

12月27日、B & G天瀬海洋センターで復興を願う「天瀬を元気に！応援プロレス」が行われた。大分を拠点に活動するプロレスリングF T Oのメンバーがシングルマッチやタッグマッチなどで熱戦を展開。空中戦や場外乱闘もあり、観客席から大きな拍手が送られた。熱戦を見守った住民は「力強い試合で元気をもらいました」と笑顔で話していた。



大山

Oyama



みんな元気になわとびタイム

大山小学校では体力づくりの一環として毎週水曜日の午前8時15分から30分まで「なわとびタイム」が行われている。これは全校児童が体育館に集まり、学年別に分かれて大縄で8の字跳びを3分間に何回跳べたかを競うもの。

まずは競技前に学年別の目標回数を発表し、準備運動として「3分間の8の字ダッシュ」という8の字に連なりながら走る運動を行う。本番前には大縄跳びで4分間の練習を行い、本番は大縄に引っかからないように、全員が真剣な表情で8の字跳びを行っていた。最後は跳んだ回数を発表し、1月20日は3年生が195回、6年生が347回跳び目標回数を達成。他の学年からは大きな歓声が上がっていた。朝から体を動かすことができるなわとびを児童たちは生き生きとした表情で元気に跳んでいた。



神々しい光に包まれて

冬至近くの日、大山ダムでは幻想的な光景を目にすることができる。午後3時を過ぎた頃、高さ94mのダム堤体の常用洪水吐から太陽光が通り抜け、まるでダイヤモンドのような眩しい光を放ち出す。光は時間とともにダムに遮られ、5分ほどで元の薄暗さに戻る。わずかな時間にだけ現れる太陽のスポットライトに来場者は目を奪われていた。



鬼火焚き、赤く大きな炎に祈願

1月9日、中川原の榎瀬河川広場で「鬼火焚き」が行われた。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小し、中川原地区の青壮年会のみで開催。午後6時から竹で組まれたやぐらに点火し、門松や正月飾りなどを燃やした。竹の弾ける音が響く中、燃え上がる炎を見つめながら参加者たちは今年一年の無病息災を祈願した。